

Rim El Habibi, Media Associate, Tel.: +41 (0) 79 531 3111, rim.elhabibi@weforum.org

日本の専門家は、重大リスクとして政府債務とエネルギーおよび農産物価格の変動性に言及

- 2013年のリスク・ケースは、健康問題への根拠なき過信、デジタルワイルドファイヤー、経済・環境的ストレスが含まれる
- 世界経済フォーラムのリスク・レスポンス・ネットワークによる新たな国別弾力性評価についての特集掲載
- 「グローバルリスク報告書 2013年版」の日本語完全翻訳版をリリース
http://www3.weforum.org/docs/WEF_GlobalRisks_Report_2013_JP.pdf

2013年3月12日(日本、東京) — 世界経済フォーラムの「グローバルリスク報告書 2013年版」によると、日本の専門家の考える、今後10年で最も発生確率が高く影響の大きいリスクは、増加の一途をたどる政府債務(長期にわたる財政赤字)となっています。東日本大震災から2年を過ぎた本日、本報告書の日本語版が発表されました。

1,000人を超える有識者および産業リーダーを対象としたグローバルな調査の結果から得られた様々なプライオリティを反映して、日本でも「エネルギーおよび農産物の価格の極端な変動性(ボラティリティ)」「貧富の差(極端な所得格差)」「サイバー攻撃」「失業(長期的な労働市場の不均衡)」が最も発生確率が高いグローバルリスク5項目の中に挙がっています。

本日発表された「グローバルリスク報告書 2013年版」の日本語完全翻訳版は、日本人関係者が日本語でグローバルリスクについて深く知ることができる貴重な機会を提供します。本報告書では、50項目のグローバルリスクを説明し、それぞれを経済、環境、地政学、社会、技術の各分野に分類した上で、その発生確率と影響について回答者に評価を依頼しています。また、長期的展望も掲載されていますので、それを基にして、日本のビジネス、政府、市民社会の各界のリーダーが、日本のこれからの道筋を計画できるようになっています。

過去2年は、長引く世界の金融危機や環境およびエネルギー分野の再構築に直面し、日本にとって極めて重大な年でした。そのため、国の弾力性(レジリエンス)評価の枠組みを新たに導入し、各国指導者が自国の弾力性の度合いを判断できるようにした特集掲載は特に日本にとって有用でしょう。国家は単独で外因性のグローバルリスクに対応することができません。よって、その国に備わる弾力性が守備の重要な第一歩となります。

本報告書の編集長であり世界経済フォーラムのマネージング・ディレクターであるリー・ハウエルは、「こうしたグローバルリスクは、本来、人類にとって最も重要なシステムの不具合を知らせる警告です」と警鐘を鳴らしています。また、「大きな混乱があっても重要なシステムの機能を継続できるように、グローバルリスクに対して国家の弾力性(レジリエンス)を優先課題とする必要があります」とも述べています。

世界経済フォーラムのリスク・レスポンス・ネットワークは、2011年3月11日の大震災や原子力事故の教訓からレジリエンスを強化するために、日本のリーダーたちと密接な協力を続けてきました。

マーシュ・アンド・マクレンアン・カンパニーズのグループ会社である、マーシュ・ブローカー・ジャパンの代表取締役、平賀暁氏は次のように述べています。「東日本大震災が日本を襲ってから2年が過ぎましたが、被災地はまだ復興の途上です。市民と企業の両方が、地震後の再建にどれほど深く苦しんでいるかが分かります。レジリエンス特性を高めることで、ローカルとグローバル両方のレベルで展開される、予期せぬマイナスの結果に備えることができるようになります」

「グローバルリスク報告書 2013年版」では、世界が懸念すべき最重要リスク・ケース3項目を以下の通り分析しています。

1. 健康問題への根拠なき過信

世界の健康状態が大きく向上したため、私たちは逆に健康について危険なまでに無頓着になっています。細菌が抗生物質に対する耐性を強めてきているため、現在すでに過度な負担がかかっている医療システムを崩壊の危機に押しやる可能性があります。一方で、世界が国境を越えて密接につながるようになったため、伝染病が拡大しやすい状況にあります。

2. 経済・環境的なストレス

急を要する社会経済的なリスクに関心が集中しているため、近年、気候変動の課題はおざなりにされがちです。経済と環境の両方に構造変化が起こっている現在、このリスク・ケース分析では、経済・環境の両システムで最悪のシナリオの回避に必要な戦略的投資を行うための新しいアプローチに焦点をあてています。

3. デジタル・ワイルドファイヤー

印刷機からインターネットに至るまで、新しいテクノロジーがどのように社会を形作っていくかを予想することは、いつの時代でも困難でした。情報の質を守る番人の役割を担う既存のメディアも崩れてきました。そのため、このリスク・ケース分析では、ネット上の密接な接続性がどのようにしてネット上の「炎上」のような事態を拡大させるのかを考え、またどうすれば「鎮火」できるかを問いかけています。

本報告書は、今後の研究対象となるべき未知の懸念項目として「Xファクター」も取り上げています。これらのファクターの中には、地球工学の悪用や頭脳的能力変換技術なども含まれています。

「グローバルリスク 報告書2013年版」はマーシュ・アンド・マクレナン・カンパニーズ、スイス・リインシュアランス・カンパニーズ、チューリッヒ・インシュアランス・グループ、オックスフォード大学のマーティン・スクール、シンガポール国立大学、およびペンシルベニア大学のウォートン・リスク・マネージメント・センターの専門家たちの協力を得て編纂されています。この報告書は、世界経済フォーラムのリスク・レスポンス・ネットワークの最も重要な取り組みです。リスク・レスポンス・ネットワークはグローバルリスクの所在の理解、監視、管理により弾力性を育成する独自のプラットフォームを公民両セクターのリーダーたちに提供しています。

【編集者のみなさまへ】

「グローバルリスク報告書2013年版」に関するお問い合わせ先：

Yumiko Takada, Manager, Marketing & Communication, Marsh Japan, Marsh & McLennan Companies, at +81 3 5334 8547 or yumiko.takada@marsh.com

Jason Groves, Global Director Media Relations, Marsh, Marsh & McLennan Companies, United Kingdom, at +44 20 7357 1455 or jason.groves@marsh.com

Rim El Habibi, Media Associate, World Economic Forum, at +41 (0) 79 531 3111 or rim.elhabibi@weforum.org

「グローバルリスク報告書2013年版」の全文：<http://www.weforum.org/globalrisks2013>

エグゼクティブ・サマリーをダウンロードする：[Español](#) | [Français](#) | [Deutsch](#) | [Português](#) | [Русский](#) | [日本語](#) | [中文](#) | [한국의](#) | [Việt](#) | [عربي](#)

Twitterでリスク・レスポンス・ネットワークをフォローする：<http://www.twitter.com/WEFRisk> ツイートにはハッシュタグ#risks2013を付けてください。

リスク・レスポンス・ネットワークについてもっと知る：<http://www.weforum.org/RRN>

世界経済フォーラム2013年度年次総会の詳細：<http://wef.ch/Davos>

フェイスブックでフォーラムのファンになる：<http://wef.ch/facebook>

フォーラムのブログを読む：<http://wef.ch/blog>

Scribdでフォーラムの報告書を読む：<http://wef.ch/scribd>

今後のフォーラムのイベントを見る：<http://wef.ch/events>

フォーラムのニュースリリースを予約購読する：<http://wef.ch/news>

世界経済フォーラム(World Economic Forum)は、ビジネス、政治、アカデミアをはじめとした社会における各界のリーダーが連携することにより、世界・地域・産業のアジェンダを形成し、世界情勢の改善に取り組む、独立した国際機関です。

1971年にスイスのジュネーブに本部を置く財団として設立された世界経済フォーラムは、特定の政治、党派、国家などの利益に関連しない公正な非営利団体です。
(<http://www.weforum.org>)



World Economic Forum, 91-93 route de la Capite, CH-1223 Cologny/Geneva
Tel. +41 (0)22 869 1212, Fax +41 (0)22 786 2744, <http://www.weforum.org>